

雨風に負けず鯉を攻めたてる

年に1回の伝統行事「ザ・鯉攻め」

糸島市井原の薄田ため池で9月23日、鯉攻めが行われました。

鯉攻めは、農業用ため池の年1回の掃除を兼ねて、ため池の水を抜き、鯉や鮒を捕まえる伝統行事です。当日は雨風が強い悪天候となりましたが、地元の人を含め、約100人の参加者が集まり、大にぎわいとなりました。

今回参加した九大院生の野畑さんら3人は、初めてながら80cmと60cmの大物を捕まえ、地元の人たちを驚かせていました。



九大院生の3人が捕まえた大物の鯉。あまりの大きさに地元の人もビックリ

100歳を超えた元気な市民

在宅高齢者を市長が訪問・お祝い

敬老の日を祝って9月17日、自宅で生活されている、前原・二丈・志摩地区の、それぞれの最高齢者のお宅に、市長が訪問しました。

この日、市長が訪問したのは、倉本リエさん(志摩岐志/104歳)と中前キヨさん(二丈深江/103歳)、松尾ハナさん(前原駅南/103歳)の3人です。

100歳を超えて自宅で生活されている3人は、ともに元気。お祝いの言葉に「ありがとうございます」と力強く答えていました。



みなさん、100歳を超えてもしっかり受け答えされていました(写真は倉本さん)

糸島を完歩するぞエイエイオー

体中で自然の深さを感じた一日

9月23日、「糸島三都110キロウォーク実行委員会」主催の「第1回糸島を歩こう!」と「田んぼと海と青空と」が丸田池公園をスタート・ゴールに開催されました。

緑豊かな糸島平野や青く澄んだ海や空を眺めながら歩く予定でしたが、この日は朝から雨。試練の20キロウォークとなりました。

参加者たちは「しろしい」雨に打たれながらも長い道のりを歩き、普段体験することのない、体中で自然を感じた1日となりました。



悪天候の中のウォーキング、これもまた自然の醍醐味(志摩寺山付近)

福岡郷土の美術をクルージング

糸島ゆかりの作品も展示

志摩歴史資料館では9月18日から10月11日にかけて、福岡県立美術館と市の共催で移動美術館展「糸島アートクルーズ」が開催されました。

県内各地で開催されている移動美術館展も今年度は開催場所が糸島市ということもあり、糸島ゆかりの作家である、松永冠山や津上昌平、松井源右衛門などの作品も展示されました。

また会期中には、子どもたちが参加できるイベントなども行われ、幅広い年代の来場者が郷土の美術を楽しんでいました。



5mのカヌーに自由にペイントするイベントも9月25日に開催

和と洋の楽器がアンサンブル

アクロス・レインボーコンサート

9月25日、志摩歴史資料館で、(財)アクロス福岡と市の共催でコンサートが開催されました。

この日は、尺八と箏、ヴィオラ、キーボードの、和楽器と西洋の楽器のアンサンブル。会場は定員を超えて満席となり、立って演奏を楽しむ人たちもたくさんいました。

「哀歌」や坂本九さんの「見上げてごらん夜の星を」、映画「天空の城ラピュタ」から「君をのせて」など8曲を演奏。次回は、来年2月11日(金・祝)に前原公民館で開催される予定です。



会場は、和と洋の楽器が奏でる幅広い曲目の演奏に聞き入っていました

採れたての枝豆でビール

日本初の糸島ビアファーム

二丈松末の大豆畑で9月20日、日本初のビアファームが開催され、市内外から300人以上の人が参加しました。

今年の枝豆は、猛暑の影響で育ちが悪いとのことでしたが、真ん丸に膨らんだ枝豆に、参加者たちは大喜びの様子でした。

収穫した枝豆は、塩ゆでにして食べました。会場では、地元の食材を使ったソーセイジなどの加工品も販売され、ビール片手に満足するお父さんたちの姿も目立ちました。



真ん丸に膨らんだ枝豆を楽しく収穫する親子連れ